

カメムシ類（コアオカスミカメ）

茎頂部の
食害



加害痕



被害葉は伸長に伴い裂ける

【発生生態と被害の特徴】

本県では加害種が特定されていないため発生生態は不明。

6月から寄生がみられ、幼虫および成虫が生長点付近の新芽を吸汁し、吸汁痕が生じる。やがて葉の生長とともにそこが裂けるので品質を著しく低下させる。ほ場の周辺雑草が発生源と思われる。